

基礎・基本の定着と『歴史マップ』の活用

宮崎県清武町立加納中学校 馬原 祐介



1 はじめに

今回の学習指導要領の改訂に際しては、「基礎・基本の確実な定着を図る」ことが提言の1つとしてあげられており、これは現在の最も大きな教育的課題の1つとなっている。

しかし、そのような状況の中で、授業時数と指導内容の削減も行われた。まず地理的分野では、「いくつかの地域の事例を通して、地域的特色を明らかにする視点や方法などを学ぶ」ことが重視され、従前の「地誌的な学習」からの改善が図られている。また、歴史的分野においても「歴史についての学び方・調べ方や、多面的な見方を身につける」ことが重視されている。つまり、私たち現場の教師には「基礎・基本の確実な定着」と「学び方の習得」という、2つのテーマにもとづく授業づくりが求められているといえる。

そこで私は、これらのテーマへのアプローチとして次の3点に着目した授業づくりを行っている。

- (1) 授業内容における「基礎・基本」を明確にした授業設計
- (2) 板書の工夫（基礎・基本の構造化）
- (3) 歴史の授業における地図の活用

ここでは、(3) 歴史の授業における地図の活用を中心に、教材の工夫および授業実践について述べていきたい。

2 『歴史マップ』の作製・地図帳の活用

現在の2年生が中学校に入学した当初の学力検査を分析したところ、歴史上の地名（東大寺や壇ノ浦などの位置）に対する理解が、他の領域に比べて劣っていることが分かった。通常は歴史の授業で、地図帳を使って調べることが少ないためかと考える。

そこで、歴史の授業でも『歴史マップ』を作製させて、地名や位置の定着をさせていきたいと考えた。また、本校の生徒が使用している帝国書院の地図帳には、歴史的な地名も分かりやすく示さ

れているので、この地図帳を歴史の授業でも毎回活用していきたいと考えた。

実際『歴史マップ』を作製させるにあたっては、次のような2点に留意した。「ア 生徒たちの手作りであること」。手作りであれば、愛着もわき丁寧な扱い方が期待できるのではないかと考えた。「イ 書き込みが可能でコンパクトなこと」。書き込むことにより、より記憶に残り定着も図られる。また、見開き数ページであれば幅も取らず管理もしやすいと考えた。



表紙



生徒の地図（シートA）

3 実際の授業例

- (1) 「大化の改新への道のり」において

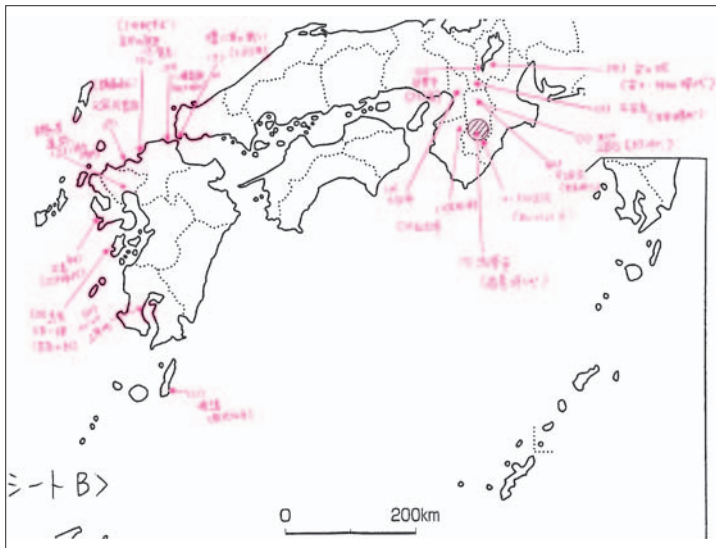
この授業の直前に、小学校の教科書に登場する歴史的地名のレディネステスト（50問）を行ったところ、約4割の生徒が80%以下の正答率であった。

そこでこの授業では「シルクロード」と「遣隋使」のルート、および「法隆寺」の位置を、地図帳や資料集で確認した後に『歴史マップ』に記入させ知識の定着を図った。（次ページ）

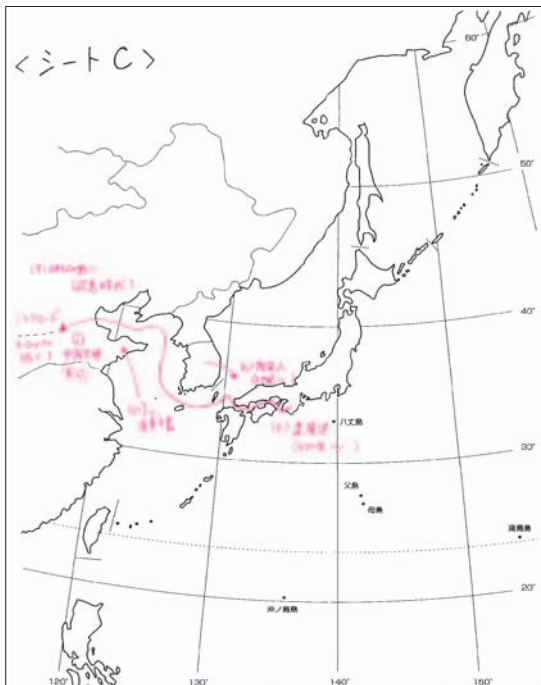
- (2) 「モンゴルの襲来と日本」において

本学習ではモンゴル軍への抵抗のため築かれた博多湾の「元寇防塁壁」（長さ約20km）を歴史的地名として扱い、『歴史マップ』へ記入させた。

この地名（場所）の確認をさせたことで生徒は、当時の御家人らの幕府への忠誠心（奉公）を実感



生徒の歴史マップ (シートC)



生徒の歴史マップ (シートB)

することができ、その後の幕府滅亡にいたる学習過程へつなぐことができた。

4 実際の授業例

これまで述べてきた教材および授業実践について、生徒たちへのアンケート（2年生10月実施）や感想をもとに、まとめてみたい。

- (1) 社会科の学習内容で、苦手なもの
- | | | |
|----|--------------|-----|
| 1位 | 説明して答えるような問い | 43% |
|----|--------------|-----|

- | | | |
|----|----------|-----|
| 2位 | 地名の理解 | 33% |
| 3位 | 資料の活用や表現 | 17% |
| 4位 | 重要語句の理解 | 7% |

(2) 『歴史マップ』の有効性について

- | | |
|--------------|-----|
| たいへん有効である | 27% |
| どちらかという有効である | 63% |
| あまり有効ではない | 3% |
| 有効ではない | 7% |

(1) から分かるように、説明して答えるような問いを苦手とする生徒が最も多い。地名についても2番目に多いことから、やはりまだまだ苦手意識を払拭するにはいたっていない。地名の理解に対する苦手意識は、地理の学習

においてもみられ、歴史よりも地理において抵抗感をもつ生徒も多い。

ただし、(2) から分かるように『歴史マップ』の活用については、約90%の生徒が「有効だ」と答えている。したがって、今後ますます活用法を工夫・改善していくことで、地名に対する興味・関心→社会的事象への興味・関心さらには学習意欲を喚起できるのではないかと考える。

5 終わりに

「個人の周辺には、決まった時期に日常的に使う資料が存在する。この資料はいつも手に届くところに置いておき、直ちに目的の資料が出せるようにしておくことが必要である。」(岩田一彦氏「社会科授業研究の理論」p.37より)。

この一節にもあるように、地図帳や歴史マップのような資料を、いつも手元に置かせておくことは、たいへん重要なポイントである。

学習とは基本的に知識の吸収の営みである。したがって次から次へとわき出てくる新たな知識を何らかの形で蓄積させ、必要なときにいつでも取りだせるようにする営みこそが、知識の習得といえよう。そして、生徒たちがより効率的に知識を習得するための手だてを講じることが教師の大きな役割の1つではないであろうか。このような教師の取り組みこそが、学力定着の一番の近道だと考えている。今後も地道に努力を重ねていきたいと考える。